

1996年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度では、太平洋高気圧の勢力は平年並であった。また、中央シベリアから沿海州にかけての正偏差が顕著で、このため太平洋高気圧の弱まった上旬は寒気が流入しやすかった。熱帯の対流活動は、インド洋から熱帯太平洋 140°E 付近まで活発で、中国南部でも顕著だった。200 hPa での大規模な発散の中心は、100°E 付近から 150°E の10°N から 20°N の帯状に広がっていた。また、先月同様中米の 10°N 付近にも発散が見られた。

世界の異常天候

①モンゴル西部から中央シベリアの高温

月平均気温が平年より 2°C以上高い所が多かった。

②中東の高温

③ヨーロッパ北西部の少雨

北西部で少雨、中部で低温傾向となった。上旬にピレネー山脈で大雪が報じられた。

④アフリカ西部の高温・少雨

⑤南アフリカの低温・多雨

中部のキンバリーで月平均気温7.5°C(-2.9°C)、東岸のダーバンで月降水量 261 mm (664%)。上・中旬に強い寒波に襲われ、30年ぶりの大雪により凍死者多数と報じられた。

⑥カナダ北部の高温

月平均気温が平年より 3°C以上高い所が多かった。

⑦アメリカ合衆国中西部の低温・多雨

⑧アメリカ合衆国南部とメキシコの高湿

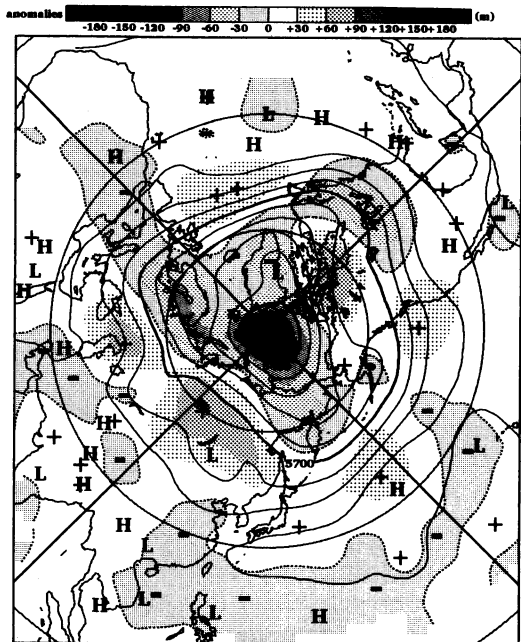
⑨アルゼンチン北東部の低温・少雨

パラグアイからアルゼンチン北東部で低温・少雨となり、月平均気温が平年より 2°C以上低く月降水量 15 mm 以下で平年の50%以下となった所が多かった。

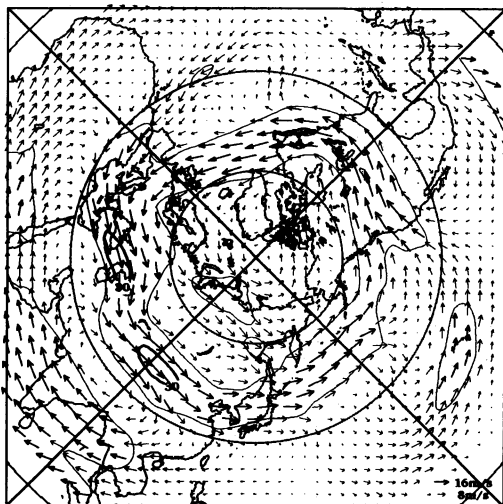
⑩その他

中国はほぼ全域で低温多雨傾向、中国南部と北朝鮮で集中豪雨による洪水被害が報じられた。

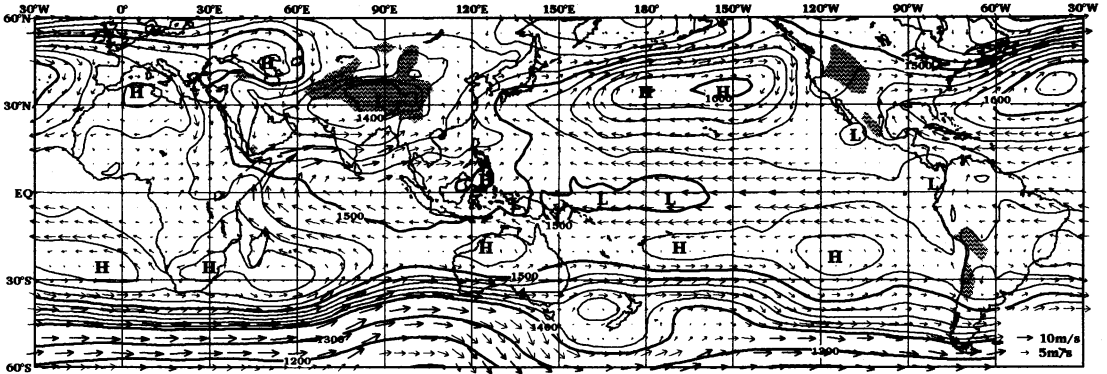
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 経田正幸)



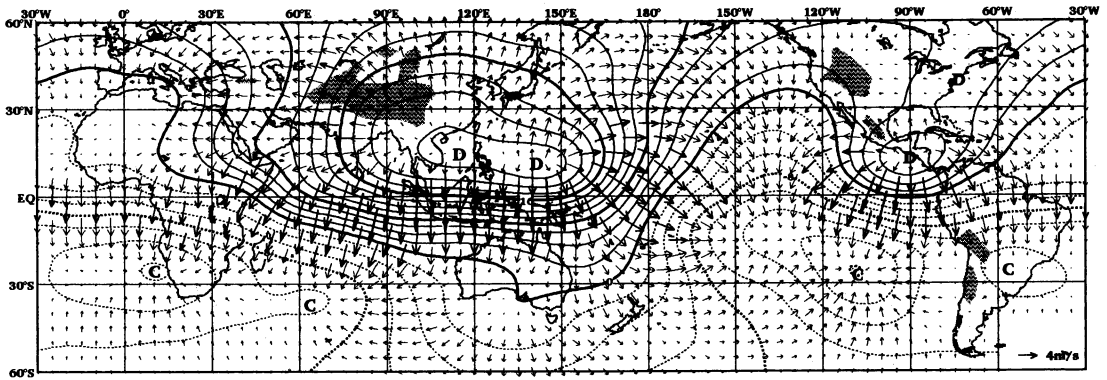
1996年7月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差等値線間隔、偏差パターン間隔は 60 m。平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。



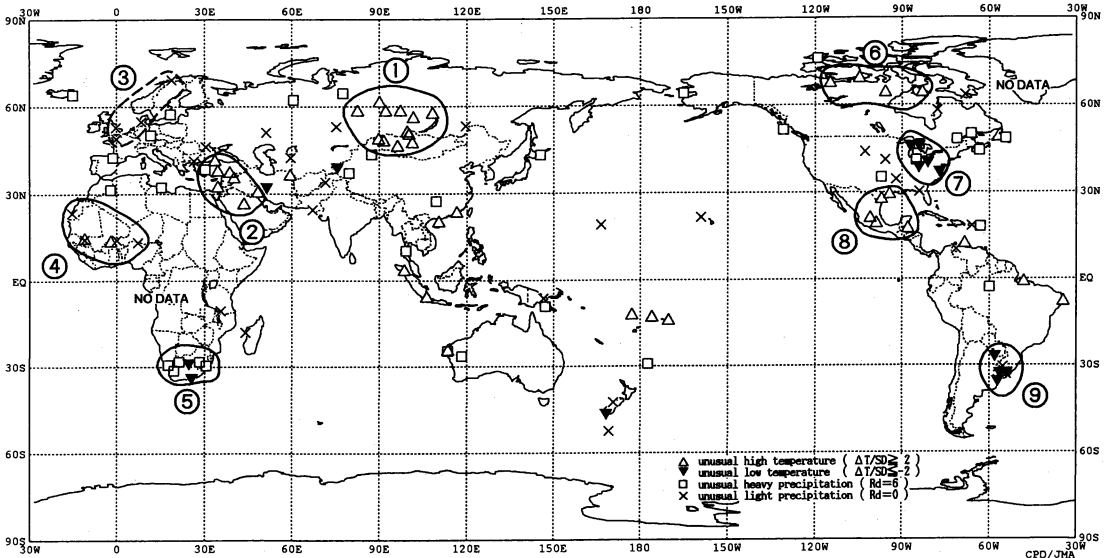
1996年7月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル等値線間隔は 20 m/s。平年値は1979~1990年のデータに基づくもの。



1996年7月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1996年7月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1996年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位置が6または0. 図中の
 番号は本文中の番号と対応している.